# 旅は道連れ

乾燥グリフォン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
旅は道連れ

【Ｎコード】
Ｎ９３６０Ｚ

【作者名】
乾燥グリフォン

【あらすじ】
日本のありふれた一般高校一年生・坂上平次はある日突然神の呼び出しを喰らい異世界へ行く事を強要される。彼は全力で拒否するも、神によって強引に魔方陣に放り込まれる。しかし、彼はタダでは転ばなかった…。

# 第0話　異世界へ

「ココは…何処だ？」

気付けば、オレこと坂上平次（高一）は白い世界に立っていた。
右も左も、後ろを振り返っても。天を仰いでも、在るのは白。
この空間が広いのか狭いのかさえ分からない。

「何でオレ、こんな所に…」

答えを返す者は居ないだろうことは判っている。
それでも、いつまでも続く無音が寂しくて、つい口から言葉が出てしまう。

「えー確か、3限目の数学が終わったんだよな、うん。それから…」

取り敢えずオレは、ココに至る経緯と状況を整理する為に、朧気な記憶の糸を辿る。

「あぁそうだ、授業の途中から段々腹が痛くなってきたんだっけ、それで…」

……あ。

「と、トイレェェェェェェ！！！そーだよオレ緊急事態なう！つーか社会人候補生としての尊厳を掛けた生涯五指に入るであろう３０分に渡る激闘を何でコロッと忘れてンだよ！！！勝利の鐘（ゴング）は鳴り響いたのによぉお！！！厠何処（エイドリアン）だ！？エイドリアァァァァァァン！！！」

…あれ？

「腹が…痛くない？」

何かおかしい…

痛みはおろか、五感全てに違和感がある。

いや、そもそもオレ…

「浮いてる！？」

腹の下を意識して初めて己の浮遊感に気付いた。

地に足がついてないのだ。

いや、比喩じゃなくて。

「知らない場所、白い空間、浮いてるオレ…」
限られた僅かな情報が材料となり、一つの推論としてオレの脳裏に浮かび上がる。
「いやまさか、そんな筈…でも、そうとしか考えられない」

「オレ、激闘のショックでセブンセ〇シズに目覚めちゃった！？」
「ちゃうわド阿呆！！」
「ぬおおぅ！！？誰！？」
誰も居なかった筈の背後から突然声を掛けられ、思わず飛び上がってしまった。
我ながら平成生まれのリアクションとは思えない。
「…て、ホント誰？」
振り向いた先には何やら荘厳かつシンプルな、ポンチョ的な服を着た仮面の人物がフヨフヨと浮いていた。
「そうか、此処はウェコムンｄ」
「だから違うっつーの！あとル〇ア奪回篇までしか知らん癖にそー

ゆーネタ挟むな！」

「失礼な、ハ〇ベル様はオレの嫁だ」

「久方ぶりにチラ見して一目惚れしたクチだろお前！！」

オレの好みどストライクだったんだ、仕方ない。

それはさておき。

「で、オレに何の用なんだ、カミサマ？」

「…ほう、何故私が神と分かった？」

「そりゃ本人しか知らんプライベートな事まで知った奴が異空間でフヨフヨ空飛んでりゃ誰だってそこに行き着くさな」

あと、テンプレ的に考えて。

「いやいや、そう謙遜することは無いぞ少年。常識人である程突飛な結論には中々到れんモノよ」

「あれ、誉められてんの？それ」

「いんや、貶しとる」

「OK、その喧嘩買った」

「ああ、そうだ。こんな事言いに来たんではないのだ。えー、ちょっと待っとれよ。確かこの辺に書類が……さ…さ…さ…あった。サ

カガミ　　ヘイジ、で合っとるな？うん」

「スルーかい」

仮面の神は虚空に手を突っ込んでガサガサと漁り出すと、一枚の紙切れを取り出した。

「えー、さてさて。お前にはこれから異世界へ旅立ってもらう」

「遠慮します」

「異世界の名は『ファルナーク』。魔法やらモンスターやら在るファンタジー満載の世界だ」

「聞けよ」

「これからとある国で勇者召喚の儀が行われる。お前はその勇者としてファルナークに行って魔王とかその他諸々の問題を解決してくるのだ。強制はしないが、行かねばファルナークとお前の世界が何だかんだで崩壊する」

「大事な所がおざなり過ぎるだろ」

「さて、時間のようだ。そこの魔方陣に飛び込めば其処はもうファルナークだ。健闘を祈る」

何時の間にやら後ろにライトグリーンに光る円形の魔方陣が『おいでませ』と待ち構えていた。

「おいこら待て、一方通行のまんまか！書類だけ淡々と読んでハイ

どうぞとかとんだ御役所仕事だよ！ちょっと上の人呼んできてぇ！あ、神だわこの人！わー後ろで何かめっちゃ点滅してるー！夜のパチンコ屋ばりに自己主張してるぅ！！」

「ほれほれ、男は度胸。思いきって未知のエリアに飛び込まんかい」

「こんな訳わかんねー事にホイホイ首突っ込む類いのノンケじゃ無ぇのオレは！つーかそもそも何でオレ！？公園のベンチで暇そうにしてるイイ男とかで良いだろ！」

「ええぃ、往生際の悪い奴だ」

「え、ちょっと待って！一般市民に対して神が力づくですか！？暴力ハンターイ！！！」

「観念しろ！」

「ぬ、ぬわー！！」

◇　◇　◇　◇　◇　◇

「……我願う…我求む…来たれ希望よ、来たれ救世の使途よ、そして我らを導きたまえ…！　　……はぁ」

暗く冷たい石造りの塔の中で、目麗しい少女の溜め息が虚しく響く。

「呪文も術式も問題なし。起動にもちゃんと成功してるのに、どうして誰も呼び掛けに答えてくれないのかしら…」

彼女、エスティアラ王国第二王女シャルロット＝レイ＝エスティアラが召喚の儀を始めて早十五分。

国の存亡を賭けて執り行われた異世界の救世主・勇者の召喚。

一国の姫でありながら有能な魔導師でもある彼女がその大役を一任されたのだが、未だ芳しい成果を得られず、度重なる詠唱による魔力消費に焦りと疲労の色を隠せない。

「姫様、少しお休みになられた方が…」

彼女を見兼ねた側付きの騎士が休憩をとることを進言するも、シャルロット姫は首を横に振り拒否する。

「彼方側とのリンクは間違いなく出来ているの。今ここで止めて再挑戦しても、同じように上手く繋がる保証は何処にもないわ」

「ですが…」

「…それに、十年掛けて貯蓄した魔石も残り僅か…私の魔力を足してもあと一回が限度かしら。それで決めないと…」

希望は、潰える。

シャルロット姫の言葉から彼女の小さな肩にのし掛かったとてつもない重圧を感じた兵士達は、一様に息を飲む。

「さぁ、いくわよ……ラストチャンス…！」

ありったけの願いを込め、彼女は再び詠唱を始める。

（お願い、来て…勇者様…！！）

詠唱と共に脈打つように輝きを増す魔方陣。

「…っ！！！来たっ！！」

魔方陣の光が一ヶ所に集まり徐々に形を成していく。

（黒髪に黒い瞳…伝承通りだわ！）

そしてついに――

勇者の召喚に成功した。

「……へ？」

「……こんにちは」

…首だけ。

「「……」」

両者の間に流れる永い沈黙。

先に断ち切ったのは勇者だった。

「…失礼しました」

やっとの思いで召喚した勇者（首）は一言そう言い残し、魔方陣の中へゆっくりと沈んでいった。

「え！？ちょっ、待って！」

漸く硬直の解けたシャルロット姫は慌てて引き留めるも、手を伸ばした時には既に沈みきった後だった。

茫然とする姫と兵士達。

そして漸く現実が飲み込めくると、徐々に顔色を悪くしていった。

召喚、失敗。

この言葉が誰もの脳裏に過りだした。

その時。

「「「！！？」」」

再び輝きだした魔方陣から、今度は右足が生えてきた。

「…これは一体……？」

シャルロット姫は困惑した。

詠唱はしていない。

只、異世界へのリンクは切っていなかっただけだ。

彼女が疑問を口にしかけた瞬間。

「「「！！？」」」

今度は左足が生えてきた。

「ひ、姫様、此れは一体どういう事なんでしょうか…？」

「解らない…でも、もしかして…」

「もしかして…？」

姫は魔方陣から生えた荒ぶる両足を見つめて考察する。

「もしかして、召喚に抵抗してる…？」

◇　◇　◇　◇　◇

「ぐぬぬぬぬぬ…！！」

「んぎぎぎぎぎ…！！」

「えぇい小賢しい、手を離せ馬鹿者！」

「断る！何でオレがそがな面倒な事をせねばならんのだ！！」

オレは耐えた。
いや、一回頭から突っ込んだけども。お姫様的セレブ垣間見ちゃったけども。
没シュートは何とか耐えた。
だが神野郎は諦め悪く、またしても俺を魔方陣に突っ込んだ。
今度は足から放り込まれた為、現在魔方陣の端にしがみついた格好になっている。

「勇者だぞ勇者！神様チートも付いとるし！厨二心擽られんか！？」

「なぁにが厨二だこのヤロー！！生憎ジ〇ンプはとっくに卒業して

んだよ！！オラわくわくしねーんだよ！！」

「ジャ○プは卒業？ほざけ！お前なんぞコ○コロがお似合いじゃあ！！」

「てめぇバカにしてんのか！少年達の原点バカにしてんのかァ！！」

「馬鹿はお前だ！良いからとっとと行って来い！！」

ゲシッ

「ぬおっ！？」

支えの腕を蹴飛ばされ、オレは咄嗟に神の服を掴んだ。

「なぬっ！？ちょっ、離せっ…！」

神はオレの手を跳ねようと前屈みになった。

しかしあろうことか、神は足を滑らせてバランスを崩してしまった。

結果…

「「うわぁあああああ！！！」」

二人して魔方陣へ飛び込んだのだった。

◇　◇　◇　◇　◇

「どういうことなの…」

度重なるイレギュラーな事態に頭が痛くなる。

シャルロット姫の前にようやっと召喚されて来たのは、先程の黒髪の少年と仮面を頭に付けた白髪の『少女』だった。

## 第０話　異世界へ（後書き）

現実逃避のベクトルねじ曲げたノリで書いてます。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9360z/

旅は道連れ

2011年12月29日11時03分発行